

指定管理者制度導入施設の管理運営に関する評価票(評価対象年度:平成29年度)

施設の名称	宮城県蔵王野鳥の森自然観察センター
指定管理者の名称	特定非営利活動法人 宮城県森林インストラクター協会
施設所管部課(室)	環境生活部 自然保護課

1. 当該施設の管理形態の推移【施設所管課記入】

期 間	管理形態	指定管理者(管理受託者)の名称	摘 要
平成21年 4月～平成24年 3月	指定管理者	特定非営利活動法人宮城県森林インストラクター協会	
平成24年 4月～平成29年 3月	指定管理者	特定非営利活動法人宮城県森林インストラクター協会	
平成29年 4月～平成34年 3月	指定管理者	特定非営利活動法人宮城県森林インストラクター協会	

(注)管理形態欄には、直営・管理委託・指定管理者の別を記入してください。

2. 現指定管理者の概要【施設所管課記入】

指定管理者の名称	名称	特定非営利活動法人 宮城県森林インストラクター協会
	所在地	宮城県利府町神谷沢字菅野沢41
指 定 期 間	平成29年4月1日～平成34年3月31日(5か年)	
募 集 方 法	<input checked="" type="checkbox"/> 公募 <input type="checkbox"/> 非公募	

3. 施設の概要【施設所管課記入】

施設の名称	宮城県蔵王野鳥の森自然観察センター		
所在地	刈田郡蔵王町遠刈田温泉字上ノ原162-1		
設置年月	平成6年4月		
根拠条例等	自然観察センター条例		
設置目的	優れた自然と多種多様な野生動植物との触れ合いを通じて県民の自然保護思想の向上に資するため、自然観察センターを設置する。		
施設の内容	敷地面積	6,149.99㎡	
	構造	鉄筋コンクリート造 一部2階建	
施設の内容	内 容	1階 504.37㎡	2階 623.70㎡
	開館(所)日	◇ 月曜日(休日を除く)を除く日 ◇ 休日の翌日(休日,日曜日,土曜日を除く)を除く日 ◇ 12月28日から翌年の1月4日までを除く日	
開館(所)時間	午前9時～午後4時30分		
指定管理者が行う業務の範囲	(1) 自然保護思想の普及及び啓発に関すること。 (2) 自然環境の保全に関する学習に対する支援に関すること (3) 蔵王野鳥の森の自然環境についての情報の収集及び提供に関すること。 (4) 自然観察センターの維持管理に関する業務 (5) 上記の他、自然観察センターの設置目的を達成するために知事が必要と認める業務		
利用料金制	採用の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
	利用料金の名称	入館料	

4. 施設利用実績【施設所管課記入(太枠内は指定管理者記入)】

(1) 開館(所)日数及び利用者数

項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (平成29年度) (A)	前 年 度 (平成28年度) (B)	評価対象年度 (平成29年度) (C)		
開館(所)日数	307 日	302 日	307 日	100.0%	101.7%
延べ利用者数	10,000 人	8,957 人	10,288 人	102.9%	114.9%

(注)対象施設が複数ある場合は、施設ごとに記入してください。

(2) 延べ利用者数の内訳

項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (平成29年度) (A)	前 年 度 (平成28年度) (B)	評価対象年度 (平成29年度) (C)		
有料入館者	3,100 人	3,312 人	2,897 人	93.5%	87.5%
無料入館者	6,900 人	5,645 人	7,391 人	107.1%	130.9%
	人	人	人		
	人	人	人		
	人	人	人		
合 計	10,000 人	8,957 人	10,288 人	102.9%	114.9%

5. 管理運営収支実績【施設所管課記入(太枠内は指定管理者記入)】

(1) 収入

(単位:千円, %)

項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (平成29年度) (A)	前 年 度 (平成28年度) (B)	評価対象年度 (平成29年度) (C)		
県指定管理料	23,704	23,863	23,704	100.0%	99.3%
利用料金収入	1,000	1,055	928	92.8%	88.0%
その他	1,132	1,118	1,153	101.9%	103.1%
収入計 (a)	25,836	26,036	25,785	99.8%	99.0%

(2) 支出

人件費	15,327	15,323	14,894	97.2%	97.2%
施設管理費	3,284	2,968	3,009	91.6%	101.4%
事業運営費	6,571	6,768	6,915	105.2%	102.2%
自主事業費	654	974	966	147.7%	99.2%
支出計 (b)	25,836	26,033	25,784	99.8%	99.0%

(3) 収支

収 支 (c)=(a)-(b)	0	3	1		33.3%
前期繰越収支差額	66	63	66	100.0%	104.8%
次期繰越収支差額	66	66	67	101.5%	101.5%

※ 自主事業の収支実績

収 入	1,100	1,079	1,078	98.0%	99.9%
支 出	654	974	966	147.7%	99.2%
収 支	446	105	112	25.1%	106.7%

6. 評価対象年度(平成29年度)の管理運営評価【指定管理者・施設所管課記入】

項目	事業実績 【指定管理者記入】	指定管理者の自己評価 【指定管理者記入】		県の評価 【施設所管課記入】	
			評価		評価
①管理運営体制	<p>所長1名・管理職員1名・準職員7名・経理サポーター1名で管理運営に当たりました。管理運営の内容は「自然と人との共生」を基本コンセプトに</p> <p>① 教育機関に野外体験の場としての有効性をPRし、利用者向上を図りました。また、蔵王自然の家と協力体制を継続し利用者の利便性を向上しました。</p> <p>② 蔵王野鳥の森観察路の利用の勧めとガイドを強化し、癒しの空間を提供するとともに、施設を活用したイベントを多数実施しました。特に冬期間のスノーレッキングを開催し好評を得ました。また、近隣宿泊施設と協働でイベントを行い地元に着した愛される施設を目指し活動しました。</p> <p>③ ことりはうす・蔵王野鳥の森は安全・安心は当たり前の考えに立ち、随時巡視を実施し危険箇所があれば即日に 応急処置を実施しました。</p> <p>以上のことを、効率的、効果的に運営を行うために人材の育成を継続的に行き効率化に繋げました。資質や能力の向上策としては</p> <p>① 自然観察会のスキルアップ研修で他施設の観察会に参加しました。</p> <p>② 刈払機、チェーンソー、工作機械の取扱いの内部安全研修を実施しました。</p> <p>③ イベント企画力向上研修として他の施設への視察を行いました。</p> <p>以上のことを実施しました。また、管理運営に当たり甲種防火管理講習修了者及び宮城県防災指導員、乙種4類危険物取扱者免状所持者をもって人員配置しました。</p>	<p>計画通りの人員で管理運営に当たりました。教育機関に蔵王野鳥の森を活用した自然体験及びことりはうす利用の周知活動を行いました。特に県南部と仙台市の小学校及び福島県北部小学校の合計290校へ利用促進の案内状を送付しました。</p> <p>建屋周辺を整備し、利用者の多くが蔵王の自然を享受できる環境を提供するとともに、生物多様性のイベントを2回開催して自然への理解を深める啓発活動を行いました。</p> <p>地元宿泊施設と協働でイベントを行い、こけし館など他の施設へイベント協力をしました。自主イベントについては参加者の意見を取り入れて、既存イベントに加え新規を数種企画し、各年代層に合わせたイベントを実施しました。冬期間は好調な雪上トレッキングに加え、家族体験イベントとして、臼で餅つき大会及び雪遊びを実施し好評でした。</p> <p>蔵王野鳥の森の整備は作業ボランティアの協力を得て、計画的かつ効率的に実施し、困難な危険木の処理に関しては当協会の専門部会の協力のもと安全な処理を心掛けました。</p> <p>展示物の解説マニュアルの見直しと解説内容の統一を図るため展示物解説マニュアルを改訂しました。</p> <p>自主イベントは総数88回実施し、参加人数は915人でした。平成28年度は89回で参加人数は989人でした。参加人数は28年度比92.5%に留まりますが天候不順の影響が考えられます。</p> <p>入館者と入館料は平成28年度比 入館者数:114.9%(10,288人) 入館料収入:87.9%(928,040円)で入館者数は増加し目標を達成しましたが、入館料は目標を下回る結果になりました。</p>	A	<p>入館者数が平成27年度の入山立入規制後激減したが、様々な工夫したイベント開催などにより、規制前の通常の入館者数の8割以上まで回復したことは評価できる。</p> <p>また、平成29年度は、更なる入館者促進のため、利用者の割合が高い教育機関(県南部と仙台市の小学校及び福島県北部小学校)へ施設の内容(イベント)を周知したことは、大いに入館者数増が期待できる。</p>	A
②施設・設備の維持管理業務の実施	<p>「施設の保守・管理に関する業務計画」に従い各業務を実施しました。</p> <p>外部委託の進入路除雪業務では降雪時に管理車道、駐車場及び上部駐車場までの除雪を行い、除雪車の範囲外は職員が処理にあたりました。</p> <p>職員が実施する業務として</p> <p>○ 巡回時のいち早い危険木や枯損木の発見と、観察路のゴミや枝など障害物の撤去を心掛けて行いました。</p> <p>また、有害動植物の説明や園内動植物の情報提供を行うための観察巡視も行いました。</p> <p>○ 展示・案内・解説は1階と2階にモニターを設置し、デジタルコンテンツによりわかり易い解説ができるようにしました。</p> <p>○ 建屋、食与品の軽微な修繕は職員が実施しました。</p> <p>○ 野鳥の森観察路の維持管理では各観察路の枯損木の伐採、階段・木橋の軽微な補修や危険ボルトの撤去、土砂流出箇所や排水溝の修繕を行いました。また利用者が歩き易いよう笹の刈り払いを順次行いました。</p>	<p>業者委託分は予定通り行いました。</p> <p>職員が実施する業務では</p> <p>○ 巡回指導は巡回時に巡視報告書を作成し、職員間の情報の共有化することで効率的に森林整備を行いました。巡視の徹底でキクイムシの被害をいち早く発見できました。大河原地方振興事務所と連絡を密にし、予防用樹幹注入剤による早期処置に繋がり、現在は経過観察中です。</p> <p>○ 展示・案内・解説は希望者に館内の案内をすることで入館者とのコミュニケーションを図り、入館者のニーズの掘り起こしをしました。</p> <p>○ 照明器具を順次LEDに変え、省エネを心掛けました。</p> <p>○ 1階の野鳥解説モニターは利用者の声を反映し、使い易く変更しました。2階のモニターは定点観察カメラで撮影した野鳥の森内の野生動物を常に視聴できるようにしました。</p> <p>○ 観察路の維持管理は計画的に行い、また野鳥の森で行うイベントを考慮して適時適切な整備を行いました。</p> <p>○ 建屋周りの森林再生整備をし、生物多様性イベント等に利用できるようにしました。</p>	A	<p>利用者の声を反映させ、野鳥観察モニターを使いやすしたり、定点観察カメラで撮影した野鳥をモニターで常に視聴できるようにすることは評価できる。</p> <p>また、施設・整備の維持管理として、巡回時の巡回報告書を作成することで、職員間の情報の共有化を行っていることはとても有効だと思います。</p>	A
③運営業務(ソフト事業等)の実施	<p>多数の幅広い年齢層の県民がいつでも気軽に訪ねられるように、以下の施策を設定し運営を行いました。</p> <p>① 展示学習プログラム</p> <p>特別展示コーナーに生物多様性を普及啓発するためのポスターを展示しました。また、森林整備の仕事、及び蔵王の自然を知ってもらうための写真展示を館内の空きスペースを利用して展示しました。教育関係や児童館などへ利用手引きを行い、併って館内の常設クラフトコーナーの材料を充実させました。</p> <p>② 自然体験プログラム</p> <p>自然観察の「野鳥の暮らしを知ろう」を年に3回シリーズで実施、野鳥の森案内は毎週日曜日ごとに特徴のある内容とし、参加者の選択肢を広げました。</p> <p>③ものづくり体験プログラム</p> <p>お手軽木工、コケ玉作り、森の万年カレンダー作り、森の時計作りなどを新たに企画しました。</p> <p>④ 広報活動強化プログラム</p> <p>ことりはうすのHPやブログを随時更新し、イベント情報や施設案内を提供しました。他の公共施設にも各種情報を掲示し、市町村の広報誌にも各種案内・情報を掲載しました。</p>	<p>① 展示コーナーの活用や総合学習のプランニングの働きかけを行ったことや無料クラフト体験コーナーを設けたことで、利用者の滞在時間が延び、満足度アップにつながり入館者数が伸びました。</p> <p>② 来館者の要望を取り入れ、野鳥の森ガイドを毎週実施し森の案内と子どもハイキングに分けてストレスなくガイドウォークに参加してもらえるようにしました。また、野鳥の暮らしを知ろう、では食の体験を取り入れた事により参加者の満足度が向上しました。</p> <p>③ものづくり体験</p> <p>見本の数を増やしたことに加え、工作道具を揃えたことで幅広い要望に対応できました。</p> <p>④ホームページや各市町村の広報誌にイベント情報や施設案内を記載しました。JAF、EVENTJOY、じゃらん家族旅行、河北ウイークリー、s-style、へ情報を提供したほか、みやぎ自然ふれあい情の森、みやぎまるごと探訪、じゃらん家族旅行などのHPへの情報提供も行い、利用者アップに繋がりました。また、KHB・TBCラジオ・BSTVで放送されたことでことりはうす情報を広く周知してもらうことができました。ホームページは画像を多くして見やすくし、ブログも含めタイムリーな更新を心がけました。</p>	A	<p>無料クラフト体験コーナーを設けることにより利用者の滞在時間が延びたことは評価でき、今後もいろいろと工夫し利用者の満足度を向上させてほしい。</p> <p>また、ホームページによるイベント広報は効果的であることから、最新情報をアップするとともに、楽しい写真を掲載するなどし、参加意欲を上げるための工夫をしていただきたい。</p>	A

項目	事業実績 【指定管理者記入】	指定管理者の自己評価 【指定管理者記入】		県の評価 【施設所管課記入】	
			評価		評価
④自主事業の実施	蔵王の食文化や野鳥の森の歴史などを取り入れた企画を多くしました。蔵王野鳥の森自然観察センター自主企画事業を88回実施し915人の参加を得ました。	平成29年度はイベント時に天候不順が多かったのですが、平成28年度並みの88回のイベント数を行うことができました。参加人数は昨年度比で92.5%の915人となりました。	A	開催回数は前年度と変更なしで、天候不順のため全体の参加人数が減少したようだが、内容を蔵王の食文化や野鳥の森の歴史などを取り入れたことは評価する。	A
⑤利用者サービスの向上	<ul style="list-style-type: none"> ○ 利用者が2階ホールで気軽に休憩をとれるように家族連れには2階図書コーナーで子どもが遊べるよう玩具や絵本を充実させ、子ども用椅子とテーブルも置いてゆっくり過ごせる環境を作りました。 ○ 野鳥の森を気軽に散策できるように定期的にガイドを実施し、希望に応じて随時案内を実施しています。 ○ ネイチャークラフト体験コーナーを常設し、いつでも誰でもがクラフトを体験できるようにしました。材料は除伐材や木の実を主に使用しています。 ○ 2階ホールのモニターで野鳥の森の野生動物の映像が見れるようにしました。 ○ 2階ホールの特別展示コーナーには生物多様性のパネルを展示し、理解を深めてもらえるようにしました。 ○ 無料開放日として4月29日(開館記念日)、5月10日～5月16日(愛鳥週間)及び毎月第4水曜日を継続しました。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもの興味を引くものを置いたことで、ゆっくり過ごす家族連れの姿が目立つようになりました。 ○ 野鳥の森ガイドは子どもの目線に立った案内ができるよう、子ども向けのハイキングを実施しています。また、参加者の状況に応じて組を分けて案内するなど、臨機応変に対応して参加者に満足してもらえる案内を心掛けました。希望があれば、平日でも森のガイドを行ないました。 ○ ネイチャークラフト体験コーナーの常設と写真・クラフト等の展示コーナーの活用及び無料開放日は予定通り実施しました。 ○ 蔵王の自然をより多くの利用者が享受できるように建屋周辺の各広場を再生整備しました。また、定点観察カメラを森内に設置し館内で視聴できる環境を整備しました。 ○ 森の利用者に対しては、プリントアウトした地図の裏面に等高線入りの地形図を入れることで、歩きやすさの目安がつけられるようするとともに、見ごろの花や紅葉の情報小冊子を配布して分かり易く森に親しんでもらう活動を継続しました。 	A	新たな利用者へのサービスとして、蔵王の自然をより多くの利用者が享受できるように建屋周辺の各広場を再生整備したことや定点観察カメラを森内に設置し、館内で視聴できる環境を整備したことは評価される。	A
⑥利用者の苦情、要望等の把握とその反映	利用者の意見、要望等は「ご意見カード」に記入していただいております。設置場所は入館者受付カウンターと2階休憩コーナーの2か所に設置しました。また、寄せられた意見や要望等に対しては迅速に対応しました。	<ul style="list-style-type: none"> ○ ご意見カード回収数:98枚 ○ 意見記載カード:69枚 ○ 意見対応枚数:9枚 <p>意見や要望については目標通り全てに対応しました。</p>	A	ご意見カードの意見や要望等に対して迅速に対応している。	A
⑦安全対策	<p>各観察路の沢に架かる階段の補修工事、枯損木の伐採、横断溝の修繕、法面の補修、土砂流出箇所の修繕の実施。</p> <p>また、道標の破損部分の修理や観察道分岐点の明確な表示を行いました。</p> <p>防災に関しては消防計画に基づく各種点検の遵守と自然災害を考慮した防災計画を作成し運用しました。</p> <p>なお、災害や事故発生時に職員が滞滞なく連絡は取れるように緊急連絡体制を整備し明示しています。また、緊急を要する傷病等の発生に備え、近隣の病院の連絡先を事務所内の目立つ場所に掲示しています。</p>	<p>観察路の安全管理は計画的な巡視と、その結果に基づき対応しました。</p> <p>消防計画に準拠した防火管理と消防訓練を実施しました。また、自然災害(地震、噴火、大雨、大雪、暴風、落雷)を想定した防災計画を作成し運用しました。</p>	A	観察路については、常に巡視し補修等を行い利用者の安全が図られている。また、新たに、自然災害(地震、噴火、大雨、大雪、暴風、落雷)を想定した防災計画を作成し運用したことは評価される。	A
⑧県民の平等利用	<p>利用者の平等利用のために、特定の個人や団体、グループに対し有利や不利にならないようにしました。特に障がいを持った方や弱者に対しては可能な限り安全かつ負担にならないように対応しました。一方、行為の制限や入館の拒否などの事項が発生した場合にも当該者が十分納得できる説明を心がけました。</p> <p>また、野鳥の森とことりはうすが県民に等しく開かれた施設であることを周知してもらうために、県内の公共施設・民間施設・マスコミ関連各社などへ、園内の施設利用や各種イベント情報の提供を積極的に行いました。</p>	<p>利用者によって有利や不利にならないのは当然ですが、障がいを持った方や弱者のために案内板や掲示板の文字を大きくしました。また、館内の案内時も声を大きくゆっくり説明するようにしました。</p> <p>行為の制限や入館拒否などの事例は発生しませんでした。</p> <p>ホームページや各市町村の広報誌にイベント情報や施設案内を記載しました。また、TBCラジオや東日本放送及びBSTVで放映したことで、ことりはうす情報を広く周知しました。</p> <p>なお、より広範囲に情報提供を行うため、地元観光協会と協働で情報の発信を行いました。</p>	A	利用者により有利・不利にならないよう配慮されており、多種多様な利用者に適切な対応が心掛けていることは評価される。	A

項目	事業実績 【指定管理者記入】	指定管理者の自己評価 【指定管理者記入】	県の評価 【施設所管課記入】		
			評価	評価	
⑨個人情報の保護	蔵王野鳥の森自然観察センターの管理に関する協定書第21条を遵守し、イベント参加者等からの個人情報の収集は本人に十分説明し実施しました。特にご意見カード協力者やイベント参加者の個人情報は集約化し、管理事務所長を個人情報保護管理者に定めて責任を明確にしたうえで管理保管をしました。また、職員へは個人情報取り扱い関連書類の回覧や日常の業務連絡で周知徹底しました。特にイベント受付者には、その都度注意を促し終了時には速やかに情報の移行を励行しました。	左記のとおりですが、イベント参加者の名簿はイベント終了時に速やかに個人情報管理者に移行するようにイベント時ごとに注意を促しています。また、ことりはうすボランティア名簿も個人情報として管理し取り扱うよう指示徹底しています。個人情報は全て金庫に保管し施錠しています。	A	個人情報の管理について、適切に取り扱われている。	A
⑩利用実績	上記「4. 施設利用実績」のとおりです。	○利用者数：平成28年度比114.9%の結果となりました。	A	平成27年度は蔵王山立入制限等の影響で利用者数が減少したが、28年度、29年度と徐々に利用者数は回復しつつある(26年度の8割超えまで回復)。	A
⑪収支実績	上記「5. 管理運営収支実績」のとおりです。	○利用料金収入：平成28年度比88.0% ○自主企画収入：平成28年度比99.9% 費用対効果を考慮した予算の活用を行いました。	A	収入は減少しているが、収入に見合った費用対効果を考慮した予算活用ができています。	A
⑫その他の取組	蔵王町農林観光課の依頼でインバウンド招致の案内を行い、また、ろくろまつりへ出店するなど関係を密にしました。自然の家へはガイド派遣や自然の家利用者の積極的な受け入れなど、協力関係を築きました。また、施設運営の客観的判断を得ることを目的に外部評価委員会を設置しました。近隣の宿泊施設と夏休み期間を利用した協働イベントを企画し、事業の拡大を図りました。環境配慮の取り組みについて、県の環境保全率先実行計画に準拠し、環境負荷の低減に努めました。	外国人の利用者が若干みられるようになってきました。フリーwifiの利用を可能にすることで受け入れ態勢を進めました。蔵王自然の家と協力体制を取ることで入館者が増えられました。様々な事業を行い、近隣施設や住民と交流を重ねることで施設の周知を図ることができました。また、外部評価委員から建設的な意見が提案され施設運営の品質向上に繋がりました。	A	蔵王町との関係を密にしたり、蔵王自然の家との協力体制を図ることで、入館者数が増えたことは評価されます。引き続き、いろいろな方法により施設の周知に努めていただきたい。	A
総合評価		指定管理第3期初年度に当たり、事業計画書に則り管理運営を行いました。利用者数は目標を達成しましたが、入館料収入は前年度比で減となりました。しかし、外部評価委員会の設置並びに仙台市や県南部及び福島県北部の各小学校に「ことりはうす」利用促進の案内状を送付し次年度に繋がる活動を実施しました。	A	誠実に管理運営されています。努力と工夫も十分評価に値します。また、蔵王山の影響による入館者数も回復しつつある状況でもあることから、更に当該施設の認知度向上に向けた新たな取組に期待します。	A

【指定管理者が行う自己評価の基準(目安)】

評価	評価の考え方
S	年度事業計画書等の内容を上回る実績であり、優れた管理運営を行った。
A	年度事業計画書等の内容と同程度の実績であり、適正な管理運営を行った。
B	年度事業計画書等の内容を下回る実績であり、さらなる工夫・改善が必要である。
C	年度事業計画書等に基づく管理運営が適切に行われなかった。大いに改善努力が必要である。

【県が行う評価の基準(目安)】

評価	評価の考え方
S	年度事業計画書等の内容を上回る実績であり、優れた管理運営が行われた。
A	年度事業計画書等の内容と同程度の実績であり、適正な管理運営が行われた。
B	年度事業計画書等の内容を下回る実績であり、さらなる工夫・改善が必要である。
C	年度事業計画書等に基づく管理運営が適切に行われたとは認められず、大いに改善努力が必要である。

7. 施設管理運営の課題等【指定管理者・施設所管課記入】

項目	指定管理者 【指定管理者記入】	県 【施設所管課記入】
管理運営の課題等	<p>1 学校関係の施設利用者の増加対策 学校関係の利用が伸び悩んでいる状況にあり、誘致活動に力を入れる必要があります。自然体験学習に有効な施設であることを各教育機関に案内状送付を継続し、案内状の内容も利用しやすい情報を提供するとともに、蔵王自然の家との協力関係を強化し便宜を図るなどして学校団体の利用増を図ります。また、一般の利用者に対しては地元の観光協会や観光情報誌及び各市町村の広報誌へ情報発信強化をしていきます。</p> <p>2 野鳥の森内の枯損木(危険木)の処理と観察路の快適化 野鳥の森内の観察路沿いの新たな枯損木(危険木)は増加傾向にあり、定期的な巡視で早期発見・迅速な処理に努めます。また、工作物も劣化が進んでいますが、軽微な補修に関してはこまめに対応していきます。観察路の不具合対策として、定期巡視と利用者の情報をもとに適切な処置に努めます。</p>	<p>蔵王山立入制限等の影響による施設利用者減も今年度に入り回復しつつある状況です。今後は更なる利用者増のため新たな企画を実施するとともに、各関係機関との関係を密にし、施設事業の情報発信に努めてほしい。</p> <p>十分な予算がない中で大変とは思いますが、安全確保にいろいろと知恵を絞って取り組んでいただきたい。</p>